

平成31年度 熊本大学2次試験後期日程(数学問題)
理学部 平成31年3月12日

- 1** $\triangle ABC$ において $AB = 2$, $BC = 3$, $\angle ABC = \frac{\pi}{3}$ であるとする。 $\vec{b} = \overrightarrow{AB}$, $\vec{c} = \overrightarrow{AC}$ とおく。
- (1) 辺 AC の長さとして、内積 $\vec{b} \cdot \vec{c}$ の値を求めよ。
 - (2) 辺 AB の中点を D , 辺 AC の中点を E とする。実数 s, t に対して点 O を $\overrightarrow{AO} = s\vec{b} + t\vec{c}$ を満たす点とする。このとき内積 $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{DO}$ と $\overrightarrow{AC} \cdot \overrightarrow{EO}$ の値を s と t を用いて表せ。
 - (3) 点 O を $\triangle ABC$ の外心とするとき、(2) の s と t の値を求めよ。
 - (4) $\triangle ABC$ の外接円上の点 F を、点 A , 点 C と異なる点で $\angle FAC = \frac{\pi}{3}$ を満たすものとする。このとき \overrightarrow{AF} を \vec{b} と \vec{c} を用いて表せ。
- 2** 曲線 $C: y = x^2 - x + 1$ のグラフは、原点を通り、傾きが正の直線 l と点 P で接しているとする。
- (1) 点 P の座標を求めよ。また直線 l の方程式を求めよ。
 - (2) 曲線 C と直線 l および y 軸で囲まれた図形を y 軸のまわりに1回転してできる立体の体積 V を求めよ。
- 3** 6種類の数字 $0, 1, 2, 3, 4, 5$ を4個並べて4桁の整数を作る。ここで 0325 など先頭が 0 のものは4桁とは見なさない。
- (1) 各桁の数字に重複を許すとき、4桁の偶数は何通りできるか答えよ。
 - (2) 各桁の数字が相異なる4桁の偶数は何通りできるか答えよ。
 - (3) 各桁の数字に重複を許すとき、4桁の3の倍数は何通りできるか答えよ。
 - (4) 各桁の数字が相異なる4桁の3の倍数は何通りできるか答えよ。

解答例

- 1 (1) $\triangle ABC$ に余弦定理を適用すると

$$AC^2 = 2^2 + 3^2 - 2 \cdot 2 \cdot 3 \cos \frac{\pi}{3} = 7$$

よって $AC = \sqrt{7}$

$$|\vec{BC}| = |\vec{c} - \vec{b}| = 3 \text{ より}$$

$$|\vec{c}|^2 - 2\vec{b} \cdot \vec{c} + |\vec{b}|^2 = 9$$

$$|\vec{b}| = 2, |\vec{c}| = \sqrt{7} \text{ であるから } 7 - 2\vec{b} \cdot \vec{c} + 4 = 9 \text{ よって } \vec{b} \cdot \vec{c} = 1$$

- (2) $\vec{AO} = s\vec{b} + t\vec{c}$ より

$$\vec{DO} = \vec{AO} - \vec{AD} = s\vec{b} + t\vec{c} - \frac{1}{2}\vec{b} = \left(s - \frac{1}{2}\right)\vec{b} + t\vec{c}$$

$$\vec{EO} = \vec{AO} - \vec{AE} = s\vec{b} + t\vec{c} - \frac{1}{2}\vec{c} = s\vec{b} + \left(t - \frac{1}{2}\right)\vec{c}$$

$\vec{AB} = \vec{b}$, $\vec{AC} = \vec{c}$ および (1) の結果に注意して

$$\vec{AB} \cdot \vec{DO} = \left(s - \frac{1}{2}\right) |\vec{b}|^2 + t\vec{b} \cdot \vec{c} = \left(s - \frac{1}{2}\right) \cdot 4 + t \cdot 1 = 4s + t - 2,$$

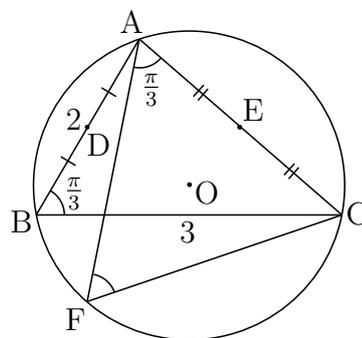
$$\vec{AC} \cdot \vec{EO} = s\vec{b} \cdot \vec{c} + \left(t - \frac{1}{2}\right) |\vec{c}|^2 = s \cdot 1 + \left(t - \frac{1}{2}\right) \cdot 7 = s + 7t - \frac{7}{2}$$

- (3) 点 O が外心であるとき, $\vec{AB} \perp \vec{DO}$, $\vec{AC} \perp \vec{EO}$ であるから, $\vec{AB} \cdot \vec{DO} = 0$, $\vec{AC} \cdot \vec{EO} = 0$ となり, (2) の結果にこれを代入して

$$4s + t - 2 = 0, \quad s + 7t - \frac{7}{2} = 0 \quad \text{よって} \quad s = \frac{7}{18}, \quad t = \frac{4}{9}$$

- (4) 弦 AC に対して, F が B と反対側の円周上にあるとき, $\angle AFC = \frac{2}{3}\pi$ であるから, $\angle FAC < \frac{\pi}{3}$ となり, 条件に反する. したがって, F は弦 AC に対して B との同じ側の円周上にあり, 円周角の定理により, $\angle AFC = \angle ABC = \frac{\pi}{3}$. $\angle FAC = \frac{\pi}{3}$ であるから, $\triangle AFC$ は正三角形となり, 外心 O は, この三角形の重心でもある. したがって $\vec{AO} = \frac{1}{3}(\vec{AF} + \vec{AC})$

$$\text{よって} \quad \vec{AF} = 3\vec{AO} - \vec{AC} = 3\left(\frac{7}{18}\vec{b} + \frac{4}{9}\vec{c}\right) - \vec{c} = \frac{7}{6}\vec{b} + \frac{1}{3}\vec{c}$$



- 2 (1) 直線 l の方程式を $y = kx$ とおく ($k > 0$). これと C の方程式から y を消去すると

$$x^2 - x + 1 = kx \quad \text{ゆえに} \quad x^2 - (k+1)x + 1 = 0 \quad \cdots (*)$$

このとき, (*) の係数について

$$(k+1)^2 - 4 \cdot 1 = 0 \quad \text{ゆえに} \quad (k-1)(k+3) = 0$$

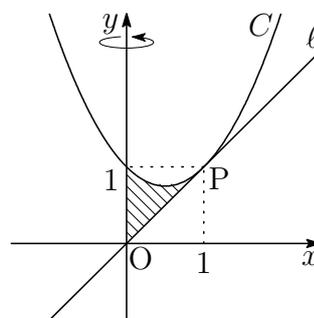
$k > 0$ に注意して $k = 1$ よって $l: y = x$

$$\text{連立方程式} \begin{cases} y = x^2 - x + 1 \\ y = x \end{cases} \quad \text{これを解いて} \quad \mathbf{P(1, 1)}$$

- (2) 求める回転体の体積 V は, 右の図から

$$\begin{aligned} \frac{V}{2\pi} &= \int_0^1 x \{ (x^2 - x + 1) - x \} dx \\ &= \int_0^1 x(1-x)^2 dx = \frac{1}{12} \end{aligned}$$

$$\text{よって} \quad \mathbf{V = \frac{\pi}{6}}$$



解説 バウムクーヘン型の求積法¹ および次の積分公式² を利用.

$$\int_{\alpha}^{\beta} (x - \alpha)^m (\beta - x)^n dx = \frac{m!n!}{(m+n+1)!} (\beta - \alpha)^{m+n+1}$$

¹http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/kumadai_ri_2016.pdf の [4] を参照.

²http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_tech_2010_kouki.pdf の [1] を参照.

- 3 (1) ● 千の位は0以外の5通り.
 ● 百, 十の位は 6^2 通り.
 ● 一の位は「0, 2, 4」の3通り.
 よって $5 \times 6^2 \times 3 = 540$ (通り)

- (2) (i) 千の位が奇数のとき
 ① 千の位は「1, 3, 5」の3通り.
 ② 一の位は「0, 2, 4」の3通り.
 ③ 百, 十の位は, ①, ② で決めた以外 ${}_4P_2$ 通り.
 (ii) 千の位が偶数のとき
 ④ 千の位は「2, 4」の2通り.
 ⑤ 一の位は3つの偶数から ④ で決めた以外の2通り.
 ⑥ 百, 十の位は, ④, ⑤ で決めた以外の ${}_4P_2$ 通り.
 (i), (ii) より $3 \times 3 \times {}_4P_2 + 2 \times 2 \times {}_4P_2 = 156$ (通り)

- (3) $\boxed{0} = \{0, 3\}$, $\boxed{+} = \{1, 4\}$, $\boxed{-} = \{2, 5\}$ とする.

- (i) 千の位が $\boxed{+}$ のとき, 他の位は次の数で構成される.

$$\{\boxed{-}, \boxed{0}, \boxed{0}\}, \{\boxed{+}, \boxed{+}, \boxed{0}\}, \{\boxed{+}, \boxed{-}, \boxed{-}\}$$

百, 十, 一の位の並びにより $2^4 \times {}_3C_1 \times 3 = 144$ (通り)

- (ii) 千の位が $\boxed{-}$ のとき, 他の位は次の数で構成される.

$$\{\boxed{+}, \boxed{0}, \boxed{0}\}, \{\boxed{-}, \boxed{-}, \boxed{0}\}, \{\boxed{-}, \boxed{+}, \boxed{+}\}$$

百, 十, 一の位の並びにより $2^4 \times {}_3C_1 \times 3 = 144$ (通り)

- (iii) 千の位が3のとき, 他の位は次の数で構成される.

$$\{\boxed{0}, \boxed{0}, \boxed{0}\}, \{\boxed{+}, \boxed{+}, \boxed{+}\}, \{\boxed{-}, \boxed{-}, \boxed{-}\}, \\ \{\boxed{+}, \boxed{-}, \boxed{0}\}$$

したがって $2^3 \times 3 + 2^3 \cdot 3! = 72$ (通り)

- (i)~(iii) から $144 + 144 + 72 = 360$ (通り)

(4) $\oplus = \{1, 4\}$, $\ominus = \{2, 5\}$ とする.

(i) 千の位が \oplus のとき, 他の位は次の数で構成される.

$$\{\ominus, 0, 3\}, \{\oplus, 2, 5\}$$

$$\text{したがって } 2^2 \cdot 3! + 2! \cdot 3! = 36$$

(ii) 千の位が \ominus のとき, 他の位は次の数で構成される.

$$\{\oplus, 0, 3\}, \{\ominus, 1, 4\}$$

$$\text{したがって } 2^2 \cdot 3! + 2! \cdot 3! = 36$$

(iii) 千の位が 3 のとき, 他の位は次の数で構成される.

$$\{\oplus, \ominus, 0\}$$

$$\text{したがって } 2^2 \cdot 3! = 24$$

(i)~(iii) より $36 + 36 + 24 = \mathbf{96}$ 通り